

「産婦人科学において血液学の知識は必須！」

三重大学医学部産科婦人科学教室 二井 理文 (学会幹事・評議員)

本学会のスローガンは、「出血と血栓ー死亡ゼロを目指してー」です。“Obstetrics is bloody business“は、有名な言葉ですが、わが国の妊産婦死亡原因において、長らく産科危機的出血は第1位を占めてきました。産科医療の進歩やシミュレーション教育などが普及し、近年は減少傾向でしたが、いまだ主要な原因の一つです。本学会では、1985年に作成された産科DICスコアの改訂が約30年ぶりに行われようとしています。消費性凝固障害、希釈性凝固障害ともにフィブリノゲンの減少が最重要であることが分かってきたことで、フィブリノゲン製剤が後天性フィブリノゲン血症に対して保険適用されました。また、肺塞栓血栓症による死亡は、いまだ減少していない現状があり、今後も本学会のスローガンは継続していかなければなりません。

その他、新型コロナウイルス感染症では、しばしば血栓症が問題となります。わが国で新型コロナウイルスによる血栓症での妊産婦死亡報告はありませんが、胎児死亡報告はあり、妊娠時の過凝固状態との関連についてさらなる研究が必要です。また、不育症における抗リン脂質抗体症候群なども大きな問題です。血友病、プロテインS欠乏、先天性アンチトロンビン欠乏症など管理に難渋するような遺伝性血液疾患についても、定まった周産期管理方法の確立が望まれます。

さらに、婦人科腫瘍におけるトルソー症候群、術後静脈血栓塞栓症、生殖医学における不妊治療を背景とした前置胎盤・癒着胎盤の増加や卵巣過剰刺激症候群による血栓症、女性医学における経口避妊薬および低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬による血栓症など血液分野の問題は多岐に渡り、すべての産婦人科学において血液学の知識は必須です。本学会で得られる知識やエキスパートとの交流は、先生方の臨床・研究に必ずや貢献するものと確信しています。是非、本学会に入会していただき、この幅広い分野の知識を一緒に深めていただければと思います。